

星屑

2013年1月号

No. 454

* * * ☆ 30周年記念号☆ * *

その1



オーストラリア皆既日食

2012年11月14日 6h39m58s

皆既日食（高田氏撮影）

オーストラリア ポートダグラス近郊 ニューウェルビーチ

2012年11月14日 6h39m58s

露出 1/60s ISO 200

カメラ NIKON D90

レンズ f500mm F8 (ケンコー)

熊本県民天文台

11/22(金) 広安西小学校で 研究授業に続いて

「月の観察」特別授業

月を観察して、子ども達が理解したことや抱いた疑問を引き出しながら・・・



特別授業は視聴覚室で

広安西小学校での「月の観察」についての特別授業(2時限分)、無事に終了しました。参加者は、児童41名、先生2名、アシスタント兼監視係の高田さん、計44名です。

前回の研究授業は教室で実施しましたが、部屋が明るくて、40名の学級では映像を使うのがとても難しかったのです。

そこで、今回は視聴覚室を確保して頂きました。

まず最初に、「月を観察して気づいたこと」を全員で確認してから、出てきた事実や疑問について、その内容を確かめたり、理由を解説したりしました。

取り上げた内容の主なもの

1) 月の色

月は赤く見えたり、オレンジ色だったり、白だったりする・・・と子ども達。

そこで、どんなときに、そのような色に見えたか? と質問。

→ 月が低いときは赤っぽい色やオレンジ色に見え、月が高く昇ると白くなった。

それはどういう現象か? 先生方も子ども達も答えが分からない様子。

→ 電子紙芝居「月の色」を上演

「地球の大気」のイメージを漫画にし、月の高度が低いときには、月からの光が地球の大気の中を通る経路が長くなることを図示。その際、青い光ほど大気によって散乱されやすい性質であることを説明。月の高度が低いときには青い光がたくさん散乱されてしまい、散乱され残った光が私たちの目に届く。それで赤っぽく見えると解説。併せて、昼間の空が青く見える(青空)のは、大気で散らされた青い光が、いろんな方向から私たちの目に届くからだと説明しました。

2) 月は丸い

なぜ丸いか?

はやぶさが飛んでいった「イトカワ」と月とを比較してみよう、と提案。そうしたら、子ども達も「はやぶさ」や「イトカワ」のことをよく知っていました。ピーナツツ! ラッコ! そこで、イトカワの大きさが長径500mで、月の大きさが直径約3,500kmであることを知らせ、大きさが随分違うことを理解してもらいました、そこから、天体は、重く、大きくなると、自然に丸く(球状に)なるということを解説しました。

3) 月の形

模型（スチロール球）と照明とを使って演示。

光が当たっている月は1つだが、観測者がそれを見る方向が違うと、見かけの形が「三日月」や「半月」や「満月」などと変化することに気づいてもらいました。

その後、私が持っている「月」の周りを回ってもらい、いろんな方向から「どんな形に見えるか」を子ども達自身に確かめてもらいました。

最後に、私の周りを回るように、スチロール球の月を回して、太陽・地球・月の位置関係と、その時の月の見え方(月の形)を最終確認。



4) 月はいつできたか？　月はどのようにできたか？

---> 電子紙芝居「月の誕生」

5) ウサギのもようは、どうしてできたか？

---> 電子紙芝居「月の海はどうしてできた」

6) 月に、水はあったか？

---> 電子紙芝居「地球の大気」で、地球の大気と水(海)と生命の歴史や深いつながりについて解説。

結構難しい内容ですが、子ども達は興味深そうに解説画面に見入っていました。

先生方は、こんな解説を聞くのが初めてだったみたい。とても感動した様子でした。



☆☆☆ 特別授業 ここで時間 ☆☆☆

全員で記念撮影をし、それから、教室に移動して給食。机を並べ替え、グルッと環になって、食事をしながら質疑・応答をすることに・・・。

子ども達、よほど興味が湧いたのでし



ょう、ビックリするほどたくさん質問が出ました。それに応えて次々と解説。

最後に、「いつごろ、どうやって月ができたか」、「ウサギのもようがどうやってできたか」、「月の形」などが分かって、今日はとても楽しかった・・・という声を頂きました。

給食が終わって、帰ろうとしたら、サインをねだられてしまいました・・・・。

11/24(土) 宮崎県日南市教育委員会主催 「星の観察会」小学生41名+引率11名

豊野少年自然の家で宿泊研修、マイクロバス2台で来台



昨年度は、豊野少年自然の家で

猛烈な寒波襲来の中、C-11と12cm屈折を持参して星の観察と解説を行いました。寒かったけれど、とても好評だったのです。その経験が有ったからでしょう、今年度は、計画の段階から「ぜひ天文台で星を見たい!」のこと。人数が総勢50名ほどなので、「雨なら、少年自然の家に会場を移しましょうね」と提案しました。だって、1階のミーティング室、いくら小学生でも、50名ではぎゅうぎゅう詰めで大変です。

当日は、微妙なお天気

予報では、「晴れる」というのですが、昼間から時折雲が広がりました。でも、半月を過ぎた月があり、それなら見えるはず。一行の来台予定時刻は19時。そこで、18時前には天文台に到着して、いつものように、玄関前の広場にブルーシートを広げ、プロジェクターやパソコンを配置、解説会場づくりをしました。準備ができたところで、パチリと会場の写真を撮影。

班ごとに順次観察

何とか月や星が見えそうなのですが、お天気の回復が、予報よりも少し遅れているようです。おまけに、風向きのせいか雁回山付近で雲が湧いたり消えたりしている様子。それで、「見える時に、見えるものを、望遠鏡で見てもらう」ことに全力を集中することにしました。

主催者側が全体を10人ほどの4つの班に分けて居られたので、1つの班ずつ順に観測室に上がってもらうことにして、その間も休むことなく、壁面に投影しながら解説し質疑応答も展開しました。こんなやり方ですから、解説の途中で、観測室に上がる班ができてしまします。その子ども達は解説の一部分を聞くことができません。ちょっと残念ですが、「あの解説、聞いたかったなあ」と思ってもらえば成功だと考え直しました。あとで、子ども達同士、どんな解説だったか話し合ってもらえば良いか。

月が見えた!

当夜は月齢10の月が見えていました。望遠鏡で月面を観察した子ども達、たくさんのクレーターや「ウサギの模様」もハッキリ見て、とっても感激していましたね。そこで、壁面スクリーンにも「月」を大写しにして解説。映し出された月の「直径」をメジャーで測り、次に「ウサギの顔の長さ(丸さ)」も測って、両者を比較してみたらどうかと提案。月の実際の直径が約3,500kmだから、ウサギの顔にあたる「静かの海」の直径がどれくらいか、計算できることを説明しました。そうしたら、子ども達は「あのクレーターの直径は?」という反応。引率の先生方も「これは面白い!! こんな方法で、月の海やクレーターの大きさが分かるんだ!」と大感激。

こんな具合で、なかなか楽しい「星の観察会」でした。

11/30(金) 18:00 ~ YMCA学院高等学校

「星空への招待」楽しい天文学の授業??

生の星空を見上げて、感動して、しっかり知識も身につけようと・・・・
しっかり募金もして下さって、お土産写真に大喜び!



今度こそ、星が見たい！

11/30(金)、YMCA学院高校の「星空への招待」、無事終了しました。来台されたのは高校生10名と引率1名。途中から、一般のお客さん1家族(5名) +島浦さん。島浦さんは、17日(土)のトークアバウトの日に来台された方です。

観察したのは、ベガ、WWスター、はくちよう座X-1、アルビレオ、海王星と天王星、

そして、木星、月など。月の撮影は、高校生達にも大人気でした！

YMCA学院が20時過ぎに帰られたあと、アルタイルやベテルギウスも見ました。一般の方々も21時過ぎには帰られたので、公開終了後、豚まんとコーヒーとでしばし談笑。22時前に、お開きになりました。この夜の運営を担当したのは、艶島、西嶋、小林J、高田の4名です。

この日も微妙なお天気。曇りや雨だったら・・・と心配しましたが、幸い、夕方から晴れ間が出始め、無事に「天体観察」ができました。薄雲が広がっていたようだし、地表近くは霧が出たらしく、透明度は良くなかったですね。

雨男じゃないぞ！

それでも、夏の大三角や天王星・海王星・木星・月など、たくさんの天体を望遠鏡で観察できたので、上出来だったと思います。YMCA学院は、前回(今年の夏)と前々回(去年の夏)、つまり2年続けて「雨やドン曇り」でしたからね。引率の先生、とても喜んでいました。「今まで天気が悪かったのは、私のせいではなかった！」というわけですね。ハ・ハ・ハ！

★★★ これからのスケジュール ★★★

1/12(土) 芦北青少年の家主催 「星の観察会」

☆☆☆ 豊野少年自然の家で出張開催の予定 ☆☆☆

1/13-14 天体画像教育利用ワークショップ

☆☆☆ 仙台市天文台で開催 ☆☆☆

私のベストショット

艶島 敬昭

***** 熊本県民天文台30周年記念 *****



皆既日食の太陽コロナ

1991年7月11日、メキシコ合衆國ナヤリト州ルイスで撮影
Canon製のビデオカメラ(Hi8)
で撮影した映像からキャプチャー

皆既継続時間が6分もあるとて
も条件の良い皆既日食でした。
太陽の磁極から吹き出すように見

えるコロナの流線がとても美しかったし、流線の中、太陽用のごく近傍に3.5等星の恒星が見えたのには感激しました。



金星の太陽面通過

2012年6月6日、県民天文台
で撮影。15cm屈折鏡筒を使用。
1時間おきに撮影した7枚の画像
を合成

前回(2004年)は、曇ってしま
い雲のスキマに数分間見えただ
け。わずか3枚しか写真撮影で
きませんでした。

でも、今回はお天気に恵まれ、
何とかほぼ全経過を観察できて

良かったです。夏至に近い時期に、朝からお昼過ぎまで、太陽光にさらされ
ながらの撮影。いろいろ対策をしていましたのですが、撮影中、カメラのシャッタ
ーをインターバル制御しているノートパソコンが熱暴走してフリーズしてしまうと
いうトラブルも発生。最後は、腕時計とにらめっこしながら、手動でシャッタ
ーを切り続け、冷や汗と脂汗とを同時に流したこと、今では楽しい思い出。

県民天文台は、その日も特別公開でした。

これからも大勢の市民と共に星空や宇宙を楽しみ続けたいと思います。

祝・熊本県民天文台30周年

はれおとこの30ねん

ニセポルコ

今年は熊本県民天文台が開台して30年となりました。まあ、いろいろとあった30年でしたが、まだ過去形で記すには気が早いというものでこれからも星とともに人生を楽しみたいと思いますね。

彗星観測を生業としての30年でもあったわけですが、31年目にグレート・コメットに出会えるのもうれしい限りです。これらも含めていつかマイ・コメグラフィでも綴ってみたいものと思うこのごろです。

さて、彗星や家業の私ですがもうひとつ自慢することができます。日食観測全戦全勝の記録更新中ということ、今年も30周年記念事業(個人的にかってに命名)にて自費でケアンズ日食にでかけました。まあ、完勝とはいきませんでしたがコロナを無事見ることができました。こうなるとまた欲がでるもので、次はどこかと考えている自分が怖くもあります。

まあ、どこに行くにしろトシがトシですから長くは旅にでることもできますまい。動けるうちに動いて、使えるうちにお金を使って(ないけどね)、せめて10回は見たいもの、そして10戦10勝を誇ってみたい…。熊本県民天文台とはあとどのくらいつきあうことになるのでしょうか、そして星仲間の皆様とも。



ポート・ダグラスにて

熊本県民天文台30周年 小林昌樹

熊本県民天文台が設立されて30年。私が会員になって30年が経ちました。

30年ですから、その間いろいろとあったわけですが、いつも感じていることは、星が好きならば熊本県民天文台にきてみるべき。そして会員になるべきということです。

なんといっても、41センチ反射望遠鏡という個人で購入するには大きすぎて高価な望遠鏡が使えることです。



この月の写真は、デジカメを接眼レンズにくっつけて撮ったものです。いわゆるコリメート撮影です。

こういった写真は簡単に誰にでも写せます。41センチ反射ならではの光量があればこそできることです。

ちょっとがんばると。こんな惑星写

真もビデオカメラを使えば、撮ることができました。



会員になることで、いろいろと楽しませてもらいました。

こういう楽しみを分かち合うのが天文台と思っておりますし、これからもそういったことのために続けられたらと思っています。

当初募金をいただいたたくさんの方々には今も感謝しています。そのときの気持ちが30年続いて来たと感じています。

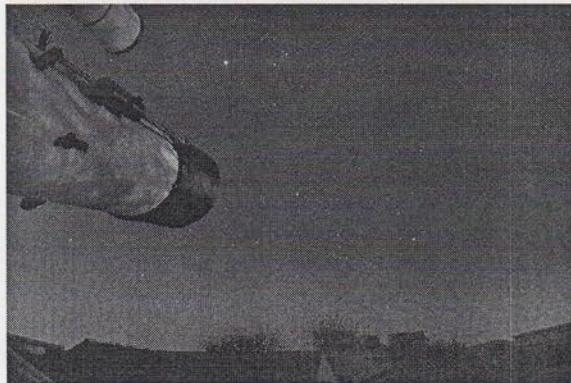
熊本県民天文台 30周年おめでとうございます！！

熊本大学天文部部長 西村 拓

こんにちは。熊本大学天文部部長の西村です。まずははじめに、熊本県民天文台開設30周年おめでとうございます。

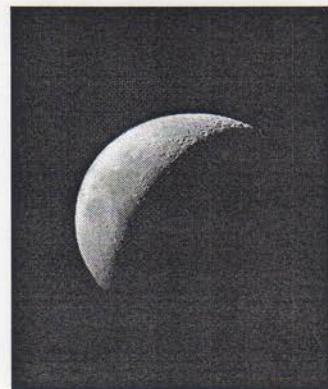
私達、熊本大学天文部も天文台の方々には何かとお世話になってきました。

ここで、30周年とは関係ありませんが、熊本大学天文部について少し紹介させていただきます。



先月には、部員数名で天文台へ来台させていただき、月やプレアデス星団、オリオン大星雲などを見させていただき、非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。本当にありがとうございました。

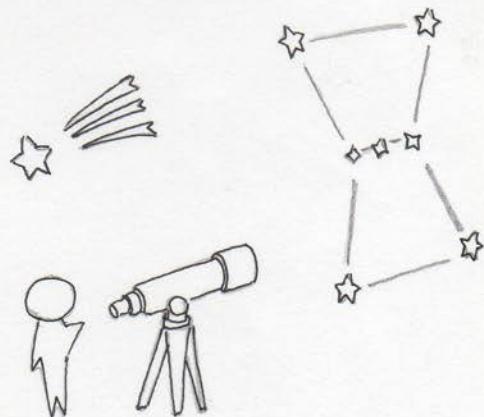
これからも何かと苦労なされると思いますが、天文台がさらに永く続くことをお祈りしています。



熊本大学天文部では、主に天文イベントにあわせて観望会を行ったり、学祭では、部員の撮影した写真や自作プラネタリウムの展示を行ったりしています。

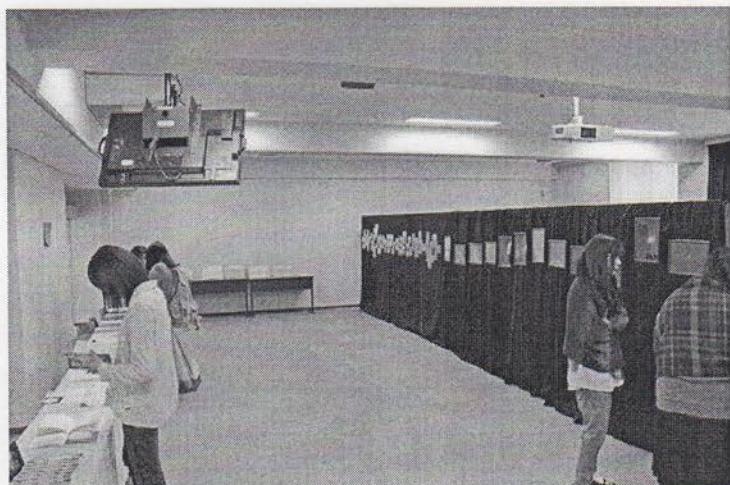
特に今年の学祭では、多くの方々に展示を楽しんでいただきました。

毎週水曜に活動していますので、星に興味のある方は、是非参加してみて下さい！



☆紫熊祭での活動☆

11月3日、4日、5日に熊本大学で紫熊祭が行われ、私たち天文部は主にプラネタリウムの上映と天文関係の展示を行いました。プラネタリウムは私たち天文部の自作で、各季節の星座や神話の解説を行い、一般のお客さんや大学生の皆さんに大好評でした☆。展示室では、天体写真の展示と販売、天文カレンダー、星空や神話の解説を載せたリーフレットの配布を行いました。写真の販売については今年からの試みで、多くのお客様に買っていただき喜んでいただきました。



←展示室の
様子です☆

写真の展示が
好評でした



←自作のプラネタリウムです★

20分1上映で各季節の星空
や神話の解説を行いました。
16000個の星空を映し出
ています

☆メッセージ☆

私たち熊本大学天文部は、県民天文台が30周年を迎える1年前、2011年に30周年を迎えました。夏には現役部員とOB・OGが熊本清和天文台に集まり、記念イベントを行いました。現役部員は、学園祭用のプラネタリウムを改良して、「出張☆プラネタリウム」を行いました。天気は生憎の空模様で、実際の星空と一緒に見ることはできませんでしたが、思い出話や最近の活動を語り合い、友好を深めることができました。また、記念として20cm反射望遠鏡を寄贈していただき、日ごろの活動で活かしています。今後も、天文部が長く続くことを祈っています。

熊本大学文学部 北川可奈子

今日初めて熊本県民天文台に行ってきました。以外と近い場所にあったので、今度自転車で行ってみようと思います。天文台では主に掃除をしました。いろいろな機材が置いてあったので、機械好きで星に興味のある方はぜひ訪ねてみてください。最高にきれいな星空が見えますよ。

熊本大学理学部 川越義志

県民天文台に私が初めて来たのは先月にあつたしし座流星群のときでした。そのときに天文台の望遠鏡で天体を見たのですが月や星雲などがすごくきれいに見え感動しました。また県民天文台で星空を見てみたいです。

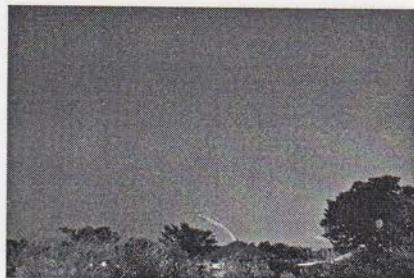
熊本大学工学部 中村泰星

今回新しく天文部部長に就いた宮下です。天文部も30周年を迎えたということで、今までの多くの歴史と伝統が積み上げられていることを改めて感じました。これからもこの伝統を傷つけないように活動を行い、大好きな星々の観測をしていきたいと思います。

熊本大学理学部 宮下恭光

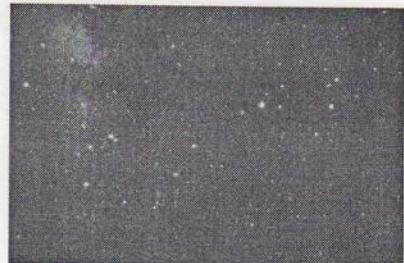
熊本大学院 自然科学研究科 藤永健太郎

私が天文台に初めて訪れたのは平成 22 年の 9 月 11 日、ちょうど準天頂衛星「みちびき」が打ち上げられた日でした。2 階では多くのカメラが南の空に向けられていたことを覚えています。星景写真を撮影したのが 3 ヶ月前の新人だった私にとって、人工衛星の打ち上げを撮影できる（しかも熊本から！？）ということに驚かされました。打ち上げの時刻から少し経ち、私は空を横切る真っ赤な“みちびき”を撮るため、必死にシャッターを開いていました。あの光景を忘れないように、活動を続け対と思います。



熊本大学院 自然科学研究科 蟹津勝志

自分が初めて天文台に訪れてから 3 年経ち、歴史の約 10 分の 1 をお世話になりました。大きな望遠鏡で星を見せてもらったことがきっかけでより天文にのめり込むようになったと思います。カメラや、小型ですが望遠鏡も購入し、趣味に打ち込む楽しさを教えてくれました。今年の夏には、喜界島にフェリーで行き、光害のほとんど無い星空を見ました。はつきり見える天の川に感動した事は今でも覚えています。天文は何度も星空を見たくなってしまう、ある意味中毒性のある楽しみだと思います。



ちょっと一眼

Poem & Illustration

(祝 30 周年)

思い起こせば 20 年前。

「天文台の近くに、家を建ててるんだ♪歩いて 2 分だよ♪」
と言ったら、

「は？ 天文台は引っ越すばい？」
というヒグさんの返事に、愕然としたのでした。

ちょうど天文台は 10 周年記念の年。私が引っ越してきて、天文台が引っ越していく、歩いて 2 分のはずが原付で 5 分になったものの、会員になり、運営の担当にもなって、天文台の 30 年の歩みの約三分の二を共にしたことになります。ふと気が付けばすっかり古株？いやいやまだまだ「星のお姉さん」のつもりでいるんですけど。



星が呼んでいるよ
きらきらきら
呼んでる
今夜も

そ
し
て



By Dio

熊本県民天文台 30 周年おめでとうございます。

高群 秀幸

私は、子供の頃から星が大好きでよく星空を見ていましたが、だんだん星を見る機会が減り、まったく見ない時期が何年も続きました。

それでも天文ガイドや天体雑誌などはたまに見ていました。

8年前に転勤で熊本に戻り、再び星を見る機会が増え、ネットで安い反射望遠鏡をポチッとし、子供の心を持った大人になった今（笑）再び永遠のロマンを求めて心の底に火がつきました！！

毎日時間に追われて仕事をしていると心が病んでいます。

そんな時、きらきら輝く星空を見ると心が癒されます！

もっときれいな星空を見たい！そう思いネットで見つけた熊本県民天台。

早速、休みの土曜日、車でおよそ一時間かけて出かけました！

そのとき見た天文台の星空に圧倒されました。

街中で見る星空とは全然違います！きらきら光る星空はとてもきれいでした。

天文台にある大砲のような望遠鏡にまたビックリ！

2時間くらいの観望で運営委員の方とたくさんの星を見ました！

もちろん帰りには会員になったのは言うまでもありません！

この天文台でたくさんの人達と出会い、たくさんのこと教えて頂きました。

これからもこの天文台でいつまでも癒されていきたいです。

画像は天文台で撮影した想いでの一枚です。



一度は撮りたいと思っていた憧れのアンドロメダ星雲です！



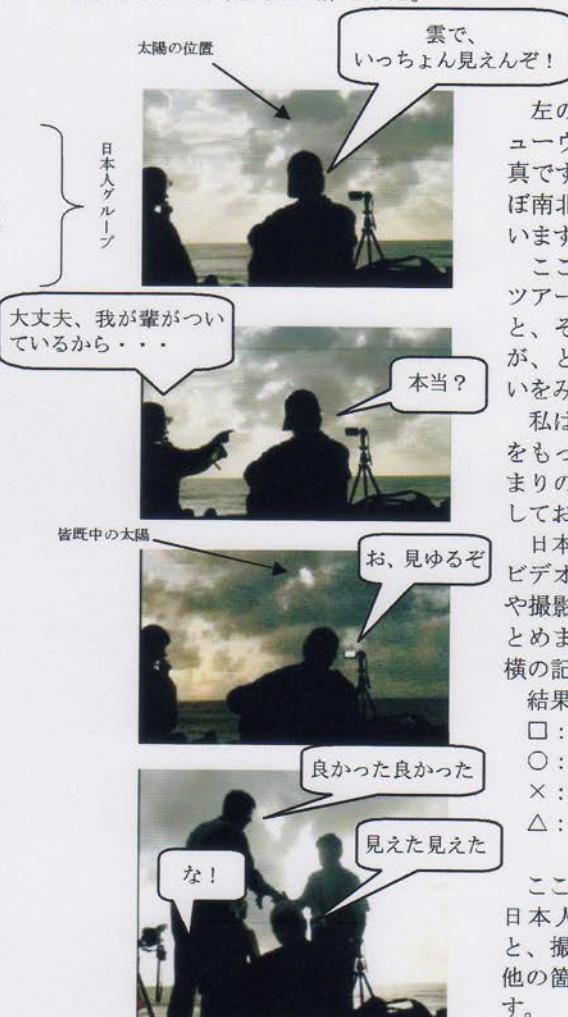
30周年記念号特集 とは直接関係ないが・・・

オーストラリア皆既日食(とんでも)報告 高田ゆういち



日食遠征も5回目となると、すっかり慣れ切ってしまって・・・ということは全然なく、日食の日、時間がせまつくると段々、期待や不安など「心が押し上がって」くることを実感します。そういう意味では、普通の観光ツアー旅行とは違った面があります。(もっとも、自分は、普通の観光ツアーには行ったことないので推測ですが。)

今回の日食は、皆既の終わり30秒だけでもかろうじて見えました。観光も十分できだし、その中のトホホ話、ドジ話、苦労話など、沢山出来事があり、充実した旅でした。



この動画は、
<http://youtu.be/idLMFU2zctw>
で公開中です。

その他、ラジオ体操を敢行し現地の人を感心たらしめた話や、日本から持っていたブーメランをヤシの木にひっかけて、それをとるために、オーストラリア先住民と共同作業をおこない日豪の友好を深めた話など、紙面の都合で書ききれなかったものについては、よかつたら、私のブログ「くまからのブログ」をご覧下さい。

OO
(*.)

左の地図は、観測地のニューウェルビーチの衛星写真です。このビーチは、ほぼ南北に1kmほど伸びています。

ここに、我々日本からのツアーと現地からの観光客と、それから地元住民の方が、どっと押し寄せにぎわいを見せました。

私は北から南へとビデオをもってその模様を9分あまりの時間、ビデオで撮影しておきました。

日本に帰ってから、そのビデオを解析し、当時の人や撮影機材や犬の分布をまとめました。それが、地図横の記号になります。

結果：

- ：男性 270名
- ：女性 : 217名
- ×：撮影機材 110機
- △：犬 12匹

ここで、特徴的なことは、日本人集団の密度の高さと、撮影機材の多さです。他の箇所から突出しています。

祝30周年 これからの夢

中島 尚

今年で天文台開設30年を迎えました。私にとっては、社会人としての33年間とまったく重なる時間もありました。天文台を作ろうという話が盛り上がった頃、まだ大学生だった私が、運命のいたずらか東京の会社への就職内定と同じ日に熊本県の教員採用試験に合格してしまったのです。しかも、最初の勤務地は現在天文台が位置する城南町でした。それから33年たった今年4月、再び最初の勤務校へ帰ってきました。おそらく最後の勤務先となることでしょうから、社会人生活の最初と最後を天文台のあるこの場所で過ごすことになりました。別に希望したわけでもないのですが、運命とは恐ろしいものです。

私の天文との関わりの中で忘れられない想い出は1976年のウェスト彗星観測です。当時の熊大天文同好会では、龍田山で観測合宿を行いました。明け方に見えるという予報だったので、テントを張って一晩中星を見ながら天体写真を撮るという計画でした。しかし、3月はじめの熊本市は大変寒く、テントの中の水滴も凍り付く有様でした。軟弱な私たちはテントの中で震えながら眠り込んでしまいました。明け方近

くに尿意を催しテントから出た私の目には、熊本空港方面にサーチライトの明かりのような物が飛び込んできました。用を足しながら、「サーチライトはじゃまだよなあ」と思っていましたが、しばらく見つめているうちに、頭が地面から離れ彗星の全体像が明らかになってきました。あわててカメラのそばに行ってみると、なんと先輩から借りていたカメラ「ペトリV6」はかちかちに凍り付き、レンズは厚い霜に覆われていました。しかし、夜明けが近づいています。仕方ありません。先輩には心の中で手を合わせながら、レンズの霜をタオルでこしごとこすって落とし、必死で手動ガイドで撮影しました。ほんの数コマしか撮れませんでしたが、感動の体験でした。その後、夏の大三角に近づいていく様子は、熊本市内中心部の白川公園で撮影をしました。今思えば、熊本市も夜中はずいぶんと暗かったのですね。

その後は沖縄の金環日食・ドイツ日食・喜界島日食・オーストラリア日食と日食病に冒されつつあります。オーロラもきれいでしたが、やっぱりきれいに晴れた空で皆既日食を堪能したいと思います。5年後のアメリカ日食を楽しみにしています。



2012年11月の県民天文台 ～運営日誌より～

開台率 8日／13日 = 61. 54%
一般来台者数 127名

総開台日数 13日
会員来台数 31名

日付	天気	担当運営	来台数	記事
2日 (金)	快晴	西嶋小林J 高田	4人	ベガ,WW,M57,M31,hx,Andy,アルビレオ,すばる,木星,月 とても熱心なお客さん2組 木星と月はカメラで撮影タイム。にぎわいました。
3日 (土)	晴れ時々曇り	中島 艶島	21人	アルタイル,ベガ,デネブカイトス,木星,月,M27, M57,M56,M13,M31,M45,WWなど 火の君文化祭ということで本日はたくさんのお客さんが来台。とても熱心な方が多く、賑わいました。 雲が流れましたが、雲が切れるときれいな星空でした。木星の衛星がまるでヤジロベエのように見えて大受けでした。月は真っ赤であるで月食という感じでした。
9日 (金)	曇り時々晴れ	西嶋	7人	ベガ,ベテルギウス,すばる,木星,Andy,WW,hx 全天に薄雲、星は見えているのだけれども寝ぼけたような空です。とても熱心なファミリー2組(リピーターさんです)と中学生の2人組。 「ヒゲ先生に会いたかったです!」という伝言を残して帰って行きました。
13日 (火)	雨	艶島	1人	広安小村上さん。11／22に実施する授業(2回目)の打ち合わせ。「月の観察」で生まれた疑問に答えつつ解説を展開する予定。
17日 (土)	曇り	艶島 西嶋 艶島 高田 西嶋小林J 小林M	8人	木星 トークアバウト 星屑準備(印刷機故障のため順延) 今後の行事 オーストラリア日食報告など
18日 (日)	晴れ	艶島 小林M 熊大天文部	13人	月,木星,ベガ,M57,M27 熊大の学生さんたち、12／8の大掃除に来てくれるそうです。 直焦点撮影、星野撮影
19日 (月)	曇り	艶島		印刷機の点検と修理依頼

日付	天気	担当運営	来台数	記事
20日 (火)	晴れ	艶島	1人	印刷機の修理 マスター送りローラー駆動部の緩みを修正。 正常に動作するようになりました。
24日 (土)	曇り時々晴れ	中島 西嶋 艶島 高群	55人	日南市教育委員会主催宿泊研修（豊野少年自然の家）の小学生38人と引率11名。一般のお客さん6人。 ベガ、月、木星、夏の大三角の説明などとても熱心な子供たちでした。しっかり見て感動して帰って行きました。
25日 (日)	快晴	艶島 中島 小林J西嶋		中尾富作さんの結婚式 挨拶で艶島氏電子紙芝居上映。中島は乾杯。無事終了
	曇り	艶島小林M	0人	星屑発送の確認等（中島が23日に発送済みです）
26日 (月)	雨	艶島	0人	41cm反射望遠鏡のファインダー調整 調整ねじの点検と調整を実施。晴れた日に光軸調整が必要です。
28日 (水)	晴れ	艶島	0人	昼： ファインダー調整（41cm鏡とファインダーの光軸調整）昼間に実施 夜： ファインダーで導入テスト 恒星と月両方ともOKでした。
30日 (金)	晴れ	西嶋 艶島 小林J高田	17人	YMCA学園の高校生10人と引率の先生1人 一般のお客さん5人、島村さん ベガ,WW,X1,海王星,天王星,木星,月,アルビ・レオ,アルタイル,ベテルギウス 18:20~YMCA学園の団体観望。とても賑やかな高校生たちでした。最後は月のコンデジ撮影。女子高校生がとても上手に写していました。入れ替わりで一般のファミリー来台。月が明るく、淡い天体はまったく見えず。木星はなかなかきれいでした。

先月はオーストラリアに日食を見に行ってきました。平日の休暇を取るのはずいぶんと勇気が必要でしたが、何とか日本脱出に成功。しかし、皆既直前まで雲が広がる空に、ほとんどの人があきらめてしまったそのとき、最後の30秒間だけ雲が切れて皆既中の太陽が見えました。思わずカメラのシャッターを切るのも忘れて見とれてしまいました。これで金環日食まで入れると4勝1敗。しかしその一敗が.....。

ひげ

今年もいよいよあと僅かという時になって、いきなり寒くなってしまいました。寒いのが苦手な私は、猫と同じように暖かいところを探してウロウロ。で、気がついたのですが、車の運転中が一番暖かいなあと。家の中って寒いんですよねえ、いろんな意味で。今年一年本当に有難う御座いました。皆様にとって、来年も良い年になりますように。

☆ 1月の天文現象 & 行事☆

- 1日（火） 元旦（熊本での初日の出は、07:20頃です）
夜明け前の東の空低く、水星と金星が並ぶ
- 2日（水） うみへび座Rが極大（3.5～10.9等 周期385日）
地球が近日点通過（147098161km）
- 3日（木） 4日にかけて、しぶんぎ座流星群が見られる
- 5日（土） 下弦（12:58）
小寒（しようかん…寒冷一段と厳しくなる。俗に「寒の入り」）
- 6日（日） 夜明け前の東天で、月とスピカが接近
- 10日（木） 月が最南（赤緯-20°52.8'）本年最南
- 12日（土） 新月（04:44）
トーケアバウト（天文台にて 20:00～ 変更の場合もあります）
- 18日（金） 水星が外合（02:50 -1.1等、視直径04.7"）
- 19日（土） 上弦（08:45）
- 20日（日） 大寒（だいかん…寒さは極限。寒の入り（小寒）から数えて16日目ごろ）
- 27日（日） 満月（13:38）
土星が西矩（04:37 0.6等、視直径16.9"）

特定非営利活動法人熊本県民天文台機関誌 「星屑」 2013年1月号 通巻454号

発行所 熊本県民天文台事務局 〒861-4226

熊本県熊本市南区城南町塚原2016番地 熊本県民天文台

TEL 0964-28-6060

振替口座 01700-5-105697

NPO熊本県民天文台事務局

天文台ホームページ <http://www.kcao.jp/> メールアドレス astro@kcao.jp

メーリングリストの加入申し込み受付中 kcaohige2003@yahoo.co.jp 中島まで